



“本”がまちに飛び出す！

撮影協力：
BLUE多摩川アウトドアフィットネスクラブ



山本さん、
9月5日(日)まで
BLUE多摩川さん
でやっていた
イベントについて
教えてください。



問い直す書店のお二人と一緒に 「水辺な図書室」を作りました！

コマエカラー代表の山本です。狛江市民にとって憩いの場所である多摩川。狛江市の重要な資源でもある多摩川について改めて知ること、私たちが暮らす地域の特性を知り、さらに愛着が持てるきっかけができればいいと思います。

今回、タッグを組んだのはDIYで展開型の書籍イベントを開催する「問い直す書店」のお二人。和泉多摩川のBLUE多摩川さんのスペースをお借りして企画しました。

狛江市立図書館の蔵書をお借りしていますので、まさに「本がまちに飛び出す」ことを実現しました。



山本雅美
comae color(コマエカラー)代表

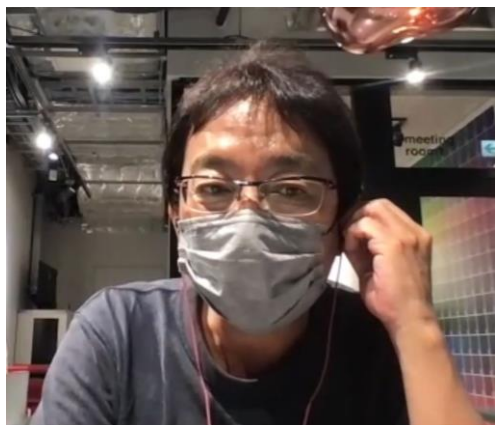
和泉多摩川駅近くの「BLUE多摩川アウトドアフィットネスクラブ」の一角にミニ図書室がオープン。川や公共空間に関する書籍、小説、絵本や写真集が選書されていきました。残念ながら9月05日で終了したのですが、これを企画したのがコマエカラーの山本さん。そしてタッグを組んだのが「問い直す書店」のお二人。彼らに、新しい本の可能性を感じるお話をお聞きすることができました。

もっと、眠っている本がオモテに 飛び出していくことが大事です。

三宅まこと（以下、三宅）：企画の背景を教えてください。

山本雅美（以下、山本）：コマエカラーのメンバーの中で、まちの中でのコミュニケーションをしたいよね、という話をしていました。

その中で、本を通じた、まちのコミュニケーションづくりって、すごく可能性があるよねという話になり、中止になってしまいましたが、えきまえ広場で「BOOK、



山本雅美さん（コマエカラー代表）

「LIFE、PARK」という本のイベントを計画していました。

三宅：その時期に、「問い直す書店」と出会われたんですね。

山本：隅田川のイベントで「問い直す書店」のお二人とお会いした時に、「あつ、これだ！自分が思っていたこと、ここにあるじゃん」と瞬間的に思いました。

「こちらから企画したいことを説明したら、「声をかけてくれて嬉しいです」と。じゃあ、一緒に何かできたらいいですね」という流れが企画の発端です。

三宅：そこから、狛江での企画が始まるんですね。

山本：最初、多摩川で「かわのわ」という定期的な小さなイベントを企画し、「問い直す書店」さんにお店してもらおうとしていたのですが、天候不順等で延び延びに。そんな時にBLUE多摩川さんのご協力を得ることができたのが非常に大きかったです。今まであまり気がつかなかった



眠っている蔵書を外に出す、キュレーションしだいで違う可能性が見えてくるというのが趣旨です。

場所に本を通じて、いろんな人たちのコミュニケーションができていくのはとても良いことですね。

三宅：山本さんは狛江の新しい図書館基本構想策定委員ですね。



山本：図書館を利用してもらうと考えるのは当然なんですけど、もつと眠っている本を飛び出してオモテに出していくことも大事だと思います。「えっ、こんな本あるの」となれば、図書館を利用するきっかけにもつながります。

問い直す書店

下の写真、福田一太さんと藤原香奈さんにお話を伺いました。

◆「問い直す書店」とは何ですか？

◇当たり前って何だろう？をコンセプトにしています。店舗を持っているわけでもなく、いろんな飲食店さんやホステルに行つて、その場所ごとのテーマを決めて出店します。そして、そのテーマに沿って当たり前って何だろう？と問い直すことで活動しています。

◆今回の企画テーマは？

◇「わたしたちにとって川とは何だろう」がテーマです。身近なものではありますが、時には危険なものになったり、何で



福田一太さんと藤原香奈さん

そうなったんだろうと、川と自分の距離感を改めて問い直してほしいなと思います。

◆公共図書館の役割とは？

◇私たちは一般的に人が生活しているときに触れる機会が少ない本を集めるようにしています。本をよく読む人でも小説しか読まなかったり、自分の好みのカテゴリーの本しかない状態になることが多いものです。

ひとつのテーマを決めて様々なジャンル、例えば哲学、絵本や自然系の本を並べることで、よって、ふだん自分から触れないような本に触れられる機会ができます。

公共図書館の役割も、自らそうしたテーマを決めて本を出していくことが、これからの時代は必要になってくるのではないのでしょうか。その時にどういう切り口でいくのか、きちんと練っていく必要があると思います。